



指定避難所と災害時の緊急連絡

いざというときの避難場所や連絡先・安否確認の手段などを、家族の間で確認しておきましょう。

結城市 指定避難所

事前に家族で確認しましょう！

No.	名称	所在地	電話(0296)
1	玉岡児童遊園	結城12018-1	(未定)
2	結城小学校	結城1927	33-2727
3	城跡公園	本町2486-1	
4	結城第一高等学校	結城1075	33-2141
5	中央公民館	結城196-1	33-3191
6	結城西小学校	結城10290-1	32-8200
7	川木谷グラウンド	川木谷10045-2	
8	結城第二高等学校	結城1355	33-2195
9	結城中学校	小田林2600	33-2154
10	城南小学校	城南町1-11	32-3003
11	結城東中学校	結城3381	33-5101
12	城西小学校	結城9633-1	32-8400
13	鬼怒商業高等学校	小森1513	32-3322

緊急連絡先

●事件・事故など	110	茨城県警察本部 結城警察署 (代)	0296-33-0110
●火災・救急など	119	茨城西域消防本部 結城消防署	0296-25-0111(音声) 0296-32-5145
●災害伝言ダイヤル	171		
●電話の故障	113		
●水道の不具合	結城市役所 上下水道部水道業務課・水道施設課		0296-34-1611
●下水道の不具合	下水浄化センター内 上下水道部下水道業務課・下水道施設課		0296-34-1612
●電気の不具合	東京電力(株)下館営業所		0120-99-5332
●その他の緊急な問合せ	結城市役所		0296-32-1111(代表)

災害時の連絡方法

大きな地震が発生すると、電話回線がこみあってしまい、電話の使用が困難になります。このようなときのために、震度 6 弱以上の地震が発生した場合、各電話会社が設置する「災害用伝言ダイヤルサービス」や「災害用伝言板サービス」を利用できます。

安否情報の確認

災害時は、電話がかりにくくなります。家族間の連絡は、電話ではなく、別の手段を利用しましょう。また、その際は次の点に注意しましょう。

- 災害時、緊急でない電話はなるべく控えましょう！
- 公衆電話は、比較的つながりやすいので、近所の公衆電話の場所を確認しておきましょう。
- 被災地にかけるより、遠隔地にかけた方がつながりやすいため、遠隔地の親戚に各自が連絡を入れて情報を集約してもらうことも有効です。

災害用伝言ダイヤルの使用法

災害時のみ利用できる NTT のサービスです。※サービス開始は、テレビ・ラジオ等で通知されます。毎月 1 日は体験利用ができます。

災害時の伝言ダイヤル

1711→1

災害用伝言ダイヤル

伝言を入れる(30秒以内)

被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言を聞く

被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

※携帯電話の災害用伝言板は、災害発生時に被災地の方が携帯電話各社のパケット通信サービスを利用して、ご自身の安否情報などの情報を登録することができるサービスです。登録された安否情報はインターネット経由で全国どこからでも確認してもらうことが可能です。ご家庭でこれらのサービスの使い方を確認しておき、突然の災害に備えましょう。(各携帯電話会社のホームページからお入りください。)

ハザードマップに関するお問合せ

結城市役所 都市建設部 都市計画課 電話 0296-32-1111 (建築係 内線 242)

ゆれやすさマップについて

地震ハザードマップとは、地震発生時に予測される震度の分布や、予想される建物の倒壊率を表した地図に、避難場所、病院などの防災に関する情報を表したものです。

ゆれやすさマップとは

ゆれやすさマップとは、結城市への影響が大きいと想定される3種類の地震(関東平野北西縁断層帯地震、茨城県南部地震、市役所直下を震源とするM6.9の地震)を想定し、50mメッシュ(50m×50mの網目)ごとに震度を計算したうえで、それぞれの地域で生じる可能性のある最大の揺れを表したものです。実際に地震が発生した場合には、予測されたとおりの震度の揺れが生じるとは限りませんが、地震に対する日頃の備えを心がけましょう。ご家族やご近所などで、「結城市地震ハザードマップ」を使って、地震に対する日頃の備えに幅広くご利用ください。

地震ハザードマップとは

地震ハザードマップとは、地震の災害予測地図であり、危険な箇所や指定避難施設などを表示した地図のことです。この「結城市地震ハザードマップ」は、予想される震度を表した「ゆれやすさマップ」と、その揺れにより予想される建物の倒壊率を表した「地域の危険度マップ」の2種類によって構成しています。私たちは、地震を防ぐことはできませんが、建築物の耐震化や家具の固定化など、予想される地震に対する事前の備えを行うことで、被害を少なくすることは可能です。何よりも日頃の心がけが、自らの命や街を守る第一歩になります。この「結城市地震ハザードマップ」をご家族やご近所などで、地震に対する日頃の備えに幅広くご利用ください。

■ 地震ハザードマップを利用して防災意識を高めよう！

大きな地震が発生すると建物や倒壊したり、家具の下敷きになるなどの被害が生じます。また、道路や電気、ガス、水道などのライフラインの寸断、火災の発生など、被害が拡大する恐れがあります。阪神・淡路大震災では、犠牲者の約8割以上が住宅などの倒壊による圧死といわれています。大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化が特に必要です。また、地震に備えるためには、地域で発生する恐れのある地震、建物被害などの可能性を十分に理解し、防災対策をしておくことが重要です。地震ハザードマップは、地震発生時に予測される震度分布図に、避難所や病院などの情報を表した地図で、災害時にもっとも、日頃の防災対策用に活用していただくものです。

■ 自主防災組織への参加

大規模な災害が発生したとき、交通網の寸断、同時に発生する火災などにより、市・警察署・消防署等の公共機関が充分に対応できない可能性があります。また、それぞれの家庭がバラバラに活動しているのは、地域の混乱は一層ひどくなります。そんなときに力を発揮するのが「地域ぐるみの防災活動」"自主防災組織"です。阪神・淡路大震災では、約95%が自力・家族・友人・隣人に救助されています。「自分の命は自分で守る(自助)」や、「隣近所、地域社会の人とのつながりの大切さ(共助)」など、日頃はなかなか意識しないことが、もっとも重要な防災対策であるといえます。いざというときに備えて、日頃から「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識のもと、町内会(自治会)活動の一環として自主防災組織に参加しましょう。

地震の起こるしくみ

地震の起こり方は、「海溝型(プレート境界線)地震」と、「活断層地震」の大きく二つに分けられます。

地震の起こり方は、関東大震災をはじめ、十勝沖地震、三陸沖地震などのような「海溝型(プレート境界線)地震」と、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震のような「活断層地震」の大きく二つに分けることができます。

1. 海溝型(プレート境界型)地震

海側のAプレートが陸側のBプレートの下に潜り込むことで、境界にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートがもどに戻ろうとしてはね上がり、地震が起こります。

2. 活断層地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、内部にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときに、ある面(断層面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

緊急地震速報とは

緊急地震速報は、最大震度5弱以上と推定した地震の際に、強い揺れ(震度4以上)の地域の名前を強い揺れが来る前にお知らせするものです。震源地近くで地震(P波、初期微動)をキャッチし、震源の位置、規模、想定される揺れの強さを、地震による強い揺れ(S波、主要動)が始まる数秒〜数十秒前に、テレビやラジオなどで素早くお知らせします。なお、震源地に近い地域では、「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。

■ 緊急地震速報の仕組み

「関東平野北西縁断層帯地震」ゆれやすさマップ

活断層で発生するM7.0以上の地震

結城市周辺の想定地震について

結城市に関わる想定地震として、「茨城県南部地震」、「関東平野北西縁断層帯地震」、結城市直下型の3つの地震を想定しています。

結城市に関わる想定地震として、「茨城県南部地震」、「関東平野北西縁断層帯地震」、また結城市直下型の地震が発生した場合の3つの地震を想定しています。結城市では、これらの地震を想定し、揺れやすさマップ検討の前提としました。

海溝型地震

■ 「茨城県南部地震」 海溝型地震で発生するM7.0以上の地震

フィリピン海プレートと北米プレートとの境界の地震「茨城県地震被害想定調査報告(第二次)(平成10年3月)」においても、茨城県南西部に最も影響が大きい地震として、この「茨城県南部地震」を想定しています。

■ 想定地震の震源域(広域)

活断層で発生する地震

■ 「関東平野北西縁断層帯地震」 活断層で発生するM7.0以上の地震

中央防災会議「首都圏直下地震対策専門調査会」の「地震フーキンググループ報告書(平成16年11月)」において挙げられた断層帯の中で、結城市に最も大きな影響を与えと考えられるものとして、「関東平野北西縁断層帯」を採用しています。

■ 想定地震の震源域(結城市周辺)

全国どこでも起こりうる直下型地震

■ 「市役所直下を震源とするM6.9の地震」 直下型地震で発生するM6.9以上の地震

直下型地震とは、対象地域の直下の活断層を震源とするM6.9の地震を想定するものです。ここでは、市役所直下に活断層を仮定するものとします。

■ 想定される震源とマグニチュード

震 源	マグニチュード
茨城県南部地震	7.3
関東平野北西縁断層帯	7.2
直下型地震	6.9

「市役所直下を震源とするM6. 9の地震」ゆれやすさマップ

直下型地震で発生するM6.9以上の地震